

## 研究結果報告書

### 徂徠学の地方展開：藩校の教育理念および上杉鷹山の藩政改革を素材として

所属：天津外国語大学 日本語学院

役職：准教授

氏名：楊 立影

従来行われてきた徂徠学研究は、理論的検討に重きが置かれ、理念史が中心に論じられているが、徂徠学の実践研究が手薄であることは否めない。本研究は藩政史の視点から、藩校の教育思想及び上杉鷹山の藩政改革を取り上げ、徂徠学の地方的展開、その受容と実践を考察したものである。研究の成果は次のようにまとめることができる。

(1) 荻生徂徠は「学文」が役人の「公務」と違い、「内証事」と主張したものの、近世中後期に設立された「公的」藩校において、徂徠学を導入した藩校は少なくない。藩校の設立契機は一般的に「上下を教化し、風俗を正し、政道を補う」といった藩制整備、領民支配のために学校教育による家中の風俗改造から進めていこうと考えられる。それは学校をはじめとする外在的「制度」としての「礼楽教化」を内面的道徳問題、つまり人心統制の手段とされる徂徠学の影響が明らかになった。次に、藩校の教育理念において、忠節、忠義の心、忠孝の道を重んじる主張が興味深い。それは「学文」による主君への忠誠心の養成を武士たる者の覚醒、その自発性に求めるといえよう。

(2) 江戸中期藩政改革の一つの典型である米沢藩上杉鷹山の改革においては、改革の中心的人物一徂徠学を奉じる家老竹俣当綱によって書かれた改革の意見書『国政談』は荻生徂徠経世論の具体的な実践である。とはいえ、竹俣当綱は「衰世」を救うには孝悌忠信、五倫五常が不可欠と強調し、治国安民に「孝」を「理」とすべきとも説いた。それは同じく改革を支持する思想的諸要素の一つ、藩主上杉鷹山の師である細井平洲の折衷学との関わりが深いといえよう。上杉鷹山の改革は徂徠学のみによって成功するものではない。一方、「道徳修身」論に欠陥がある徂徠学は現実政治において、再構築、修正されながら、実践されていたと指摘したい。

(3) 18世紀中期以降、幕藩体制の危機が一層深刻になり、こういった状況にあって幕藩は社会危機の打開策を経世論に求めた。徂徠学が寛政異学の禁により衰退したと考えられるが、実際には荻生徂徠の「制度建立」といった理念と方策が藩政改革に取り入れられ、現実から乖離しているところを克服され、生かされたことは留意すべき。要するに、近世から近代移行期における徂徠学派の経世論の役割と位置づけを実証的に検証し、把握する必要がある。その中、学派の壁を越える「学文」の歴史的意義を問わねばならない重要課題である。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 2018/06/16 「徂徠学と米沢藩上杉鷹山の藩政改革について」 2018年中国日本史年度大会 (山東省 山東師範大学) 発表者: 楊立影
2. 2017/07/20 「徂徠学派と日本近世藩校の教育思想」 2017年中国日本史年度大会 (雲南省 雲南大学) 発表者: 楊立影

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 徂徠学と藩校における「学文」 (投稿中) 発表者: 楊立影
2. 近世日本における儒学の実践－上杉鷹山の藩政改革を例に－ (投稿中) 発表者: 楊立影

書籍 (題名 著者名 出版社 発行時期等)